

令和元年度第5回 小平市環境審議会 会議要録

1 日 時

令和2年3月23日（月） 午後2時～午後3時40分

2 場 所

小平市庁舎 大会議室

3 出席者

○小平市環境審議会委員 8名

奥真美会長、竹川敏雄副会長、小口治男委員、西村守正委員、服部千春委員、三島雄介委員、小柳知代委員、中島裕輔委員

○事務局 16名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、廃棄物減量施策担当課長、資源循環課長補佐、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、水と緑と公園課緑化推進担当係長、下水道課長、下水道課長補佐、下水道課計画担当係長2名

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 令和2年度環境部が担当する主な事業の概要について
- (2) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の骨子案について
- (3) (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画の骨子案について
- (4) (仮称) 小平市第二次下水道プランの骨子案について
- (5) その他

6 配付資料

資料1 小平市第二次環境基本計画に基づく令和2年度の主な事業概要（環境部）について

資料2-① (仮称) 小平市第三次環境基本計画骨子案[修正版]

資料2-② 施策の体系（新旧対照表）[修正版]

資料2-③ 施策の体系（SDGsアイコン表示・取組実施例）[修正版]

資料2-④ 骨子案についての意見等のまとめ（審議会委員）

資料2-⑤ 気候変動適応に係る施策・取組の庁内調査とりまとめ

資料3-① (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画骨子案[修正版]

資料3-② (仮称) 小平市第三次みどりの基本計画施策の体系新旧対照表

資料3-③ 小平市みどりの基本計画地域懇談会会議録

資料4 (仮称) 小平市第二次下水道プラン骨子案[修正版]

7 内 容

(1) 令和2年度環境部が担当する主な事業の概要について

(事務局)

資料1に沿って説明。

(委員)

ESCO事業を活用したLED化は令和2年度予算の支出ではなく、省エネ効果を保証する契約形態のため、令和3年度以降に支出が生じるとのことだが、今後、一定の効果が出ればこのような方法を推進していくのか。

(事務局)

小中学校のLED化はプロポーザル方式により、事業者からの提案を審査し、最も点数の高い事業者と契約する。令和2年度中に工事が終わる予定だが、金額の支払いは令和3年度からとなる。

市民総合体育館と中央グラウンドについては、これから設計も含めて契約方法を検討する。令和2年度は1年間準備にあて、令和3年度に契約と工事を行う。

今後は、ESCO事業、リース方式、修繕などの手法を、施設の規模等に応じて検討していく。

(委員)

コロナウイルスの影響による事業者の倒産を心配する必要はないのか。

(事務局)

4月に庁内でのプロポーザル審査会で内容を審査し、6月頃までの審査を予定しているのですが、その間で判断がつくと思われるが、現在のところは予定どおりである。

(委員)

小学校を中心にビオトープ事業を実施していると思うが、現在どれくらいの学校で実施しているか。

(事務局)

今回予算化されているものは、水と緑と公園課が所管の身近なビオトープ事業のことである。当該事業は、各個人の自宅の庭で樹木を育てながらチョウや小鳥を観察するものであり、小学校で実施しているビオトープの取組ではない。

(委員)

何か所くらいあるか。

(事務局)

50名程度が行っているのので、箇所数で言えば50か所程度である。

(委員)

電気自動車の導入は令和2年度限りか、令和3年度以降も行うのか。環境対策だけではなく防災対策の一環としての考えはあるか。あるなら資料1の3ページの表の防災対策の推進にも位置付けるべきではないか。

(事務局)

庁内で充電設備の整備の調整を図りつつ、市町村総合交付金等の全額補助により、令和2年度は8台購入することとなった。東京都のゼロエミッション東京戦略でも電気自動車の普及に重点的に取り組むとされており、二酸化炭素排出削減に資するため、今後、購入の拡充は必要と考える。

昨年の台風の際には被災地や避難所で電気自動車が活用されたこともあり、防災対策の観点もある。今後、地域防災計画の見直しもあり、また、次期環境基本計画の策定も進めているので、防災部門と連携して考えていく。

なお、第二次環境基本計画の施策体系では、電気自動車導入の取組は防災のところに位置付けていなかったために表に記載していない。

(委員)

太陽光発電システムの導入については、災害時や停電時に活用する避難施設などに備えるのか。また、最低限の蓄電設備を併設することは考えているのか。

(事務局)

太陽光発電システムは停電時の際に活躍するため、各避難所に優先的に入れている。

蓄電池に関しては市民総合体育館に1か所だけ設置されている。総合体育館では、被災時に何人収容し、最低限必要な電力がどの程度かということもシミュレーションした上で導入した。

次期計画においては、委員から蓄電池や電気自動車の提案もあるため、これらを導入して災害時に避難所で活用することなども盛り込めたらと考えている。

(2) (仮称) 小平市第三次環境基本計画の骨子案について

(事務局)

資料2-①～⑤に沿って説明。

(委員)

資料2-③の具体的取組・現在の実施例で、基本方針Ⅲ水と緑と生きものとの共生の、生きものの保全・活用では、防災、ヒートアイランド、緑の効果などについて、他の基本方針と絡めて、本文の方でも具体的取組や事例を挙げていただきたい。

(会長)

適応に資する部分と生き物を守り育てていく部分としての緑の効果を表現してほしいということだと思う。ご意見を踏まえて、水と緑と生き物を守っていくことでのメリット、効果をしっかり描いてほしい。

(委員)

資料 2-③の SDGs のアイコン表示で、基本方針V学びと協働の推進の③普及啓発による環境意識の向上に、アイコン 10 番「人や国の不平等をなくそう」を位置づけているが、10 番の中にあるターゲットと環境意識の向上がリンクしていないと思われる。アイコンに含まれるターゲットとのリンクが正しくされているか確認してほしい。

(会長)

アイコンの中のターゲットとリンクするかが重要である。アイコンを位置付けるのであれば、その中に含まれるターゲットのどれと具体的に関連づけられるのかの説明が求められる。

(事務局)

③普及啓発による環境意識の向上に、アイコン 10 番を位置づけたのは、10 番に経済、宗教、年齢、性別など、いろんな意味での格差を無くしていくことが示されており、環境に関しても、情報発信によって環境意識の格差を無くしていきたいということで位置付けてみた。今後、素案を作っていく上では精査していきたい。

(委員)

新型コロナウイルスの影響で市内の小中学校が休校になっていると思うが、教室内の空気環境がどうなっているか、換気対策がしっかり出来ているかが今後重要になってくる。これまで熱中症対策として全国で冷房設備が設置されてきたが、換気は後回しになってしまった。

資料 2-⑤の気候変動適応の庁内調査とりまとめでは、教室の熱中症対策、感染症予防対策などが挙げられているので、これらの取組に合わせて、気候変動への適応の施策において、教室等の室内空気環境の確保のようなことを位置づけることについて、検討されているか。

(事務局)

意見を参考に、今後、教育部署と相談していく。

(会長)

環境基本計画にどこまで記述するべきかということはあるが、教室環境を良好に保つことは必要な視点ではあるので、関係部署と検討いただきたい

(委員)

地球環境分野に新たに気候変動への適応を位置付けているため、従来の地域エネルギービジョンを変えていく必要があると思うが、どのように変えていくのか。

適応策については、影響分野がかなり広範囲で挙げられているため、横断的な形にしないと難しいのではないかと。

(事務局)

これまで、環境基本計画と地域エネルギービジョンは二つに分かれていたが、次期環境基本計画に地域エネルギービジョンを組み込み、これを基本方針Ⅰとして位置付ける。これまでの地域エネルギービジョンはエネルギー施策を中心に取り組んできたが、新たな地域エネルギービジョンでは、気候変動適応策を含めて、地球温暖化の緩和策と適応策を両立させる形を考えている。

今回、適応策の庁内調査をした結果、様々な取組が分かったので、これらを地域エネルギービジョンの中の気候変動への適応に位置づけていくが、適応策は他の多くの施策にかかってくるので、横断的にかかってくるということを示していけたらと考えている。

(会長)

気候変動適応法に基づく適応計画を策定するのであれば、すべての部署が関わるような内容で取りまとめ、環境基本計画とは別に策定すべきと考えるが、環境基本計画の中でカバーする適応策ではすべてを網羅することは困難である。資料 2-⑤で挙げられた取組のうち、環境部署とも関連が深く一緒に実施すべきものを精査していき、次期環境基本計画の中に適応策として位置付ける作業をすべきと考える。

(事務局)

将来的には適応計画が必要になると考えているが、その足掛かりとなるような形で作りたい。環境に関わる部分で各部署と連携し、精査して次期環境基本計画に盛り込みたい。その他の部分については、データを確保しておいて、将来的に活かしていきたい。

(委員)

生物多様性を阻害するものとして地球温暖化の問題がある。二酸化炭素の排出抑制とともに、吸収することが大切である。吸収する面で一番注目されているのは、樹木の二酸化炭素の吸収、蓄える役割である。これは樹木をたくさん植えることから、生物多様性に関する取組と言える。このことをどのように取り組むのかは大事な問題と考える。

(会長)

緑が持つメリットに関連するので、この視点は生物多様性ビジョンに記載していくことになる。基本方針Ⅲの③を生きものの保全・活用というように表現を見直したが、その中に具体的な取組として外来種の防御も含まれている。保全・活用と防除は両立しないとも受け取れるが問題な

いか。

(委員)

在来種の保全につながるので問題ない考える。

(3) (仮称)小平市第三次みどりの基本計画の骨子案について

(事務局)

資料 3-①～③に沿って説明。

(委員)

農地の減少が目立ってきている状況であると思う。資料 1 の令和 2 年度の環境部の予算においては、樹林地の取得に係る費用が予算化されているが、生産緑地の買取について予算化することは難しいか。

(事務局)

難しい。鎌倉公園という都市計画公園を整備する予定であり、都市計画公園区域内には約 1.4ha の農地がある。生産緑地を市が単独で買い取るのは難しいが、国や都の補助金を活用することで多少買取を進めやすくなる。少しでも多くの生産緑地を残していきたいと考えているが、公園整備に係る生産緑地の取得であるのでそのまま農地のかたちで残すのは難しいかもしれない。

(会長)

生産緑地の買取申出をされても、現在多くの自治体で対応するのが難しい状況である。

(委員)

資料の 3-②第 4 章 1 について、(1)から(9)までの項目があるが、新しく(7)と(9)が加わっており、間に(8)が入っているが、特別な意図があるのか。

(事務局)

優先順位が高い順に並べるなどの特別な意図により構成しているわけではない。(7)と(9)の間に(8)があることについても特別な意図はない。

(委員)

違和感があるので構成について、検討いただきたい。

(会長)

関連性のあるものは近くに並べるなどストーリーが描けるような構成にすることが望ましい。

(事務局)

構成について検討する。

(会長)

先ほど小柳委員からご指摘のあった環境基本計画のみどりの効用・メリットについては、みどりの基本計画で、より詳しく表現されることになると思われる。

(委員)

資料 3-②について、現行計画では「増やす」という言葉を用いており、「増やす」というのが一つのテーマだと思われる。次期計画では「増やす」という言葉が出てこない。前回までの会議のなかで緑化について話が出ており、緑化に取り組むような表現がどこかにほしい。

先ほど話が出た生産緑地については、相続や開発などにより減少していくという難しい問題があるが、緑を増やせる方策、例えば街路樹を植えることや生垣の支援制度、屋上の緑化などのグリーンインフラ、費用がかかると思うが、そういった緑化を前提にしてほしいと思った。第4章1(5)に公共施設や住宅地、事業所のみどりの確保とあるが、これは現状を確保したい、有効に効果があるようにしていきたいというものであり、増やすという視点が弱いと感じる。

(事務局)

公共施設の緑化等のみどりを増やす取組は、次期計画においても引き続き行っていきたいと考えているが、増やす姿勢がないと受け取られないよう表現は工夫していきたい。

(委員)

第4章3(6)に「みどりに親しむ、学ぶイベント等の実施」とあるが、共働きの世代ではイベントの情報がなかなか入ってこない。

2(2)「みどりやみどりのまちづくり活動等にかかる情報発信」の文末にあるような「情報の発信」という文言を盛り込むのもよいと思った。

(会長)

2(2)の情報発信のなかに、3(6)のイベント等の実施についても含まれているという理解でよいか。

(事務局)

情報発信については、2(2)に位置付けているが、3(6)のイベント等の情報発信についても含まれてくるので、計画のなかで分かるように記述していきたいと思う。

(委員)

第4章1(7)において、防災・防犯という文言を使用しているが、防犯はどのようなことを想定

しているか。防災についてはイメージができるが、防犯についてはイメージができない。

(事務局)

防災については、公園機能等を想定している。防犯については具体的なことは現時点では想定できておらず今後の検討であるが、防災と防犯がともに関連付けられる例が多いことから並列して記述している。

(会長)

言葉として併せて使用しているが、防災の面では役立つけれど防犯の面からは緑が死角になってしまって良くないという例なども想定できるので、内容を検討していくなかで、表現も必要に応じ見直しをしていただければと思う。

(4) (仮称) 小平市第二次下水道プランの骨子案について

(事務局)

資料4に沿って説明。

(会長)

気候変動への対応という表現については、次期環境基本計画に合わせ、気候変動への適応としてはどうか。

(事務局)

表現については、今後検討していく。

(委員)

下水熱導入については、再生可能エネルギーとして今後検討すべきであるとの考えで位置付けているのか。または、既に具体的な計画がありその検討を開始するために位置づけたのか。

(事務局)

現時点で具体的な計画はないが、まずは下水熱ポテンシャルマップの公表等、事業者等が下水熱の導入を検討するにあたり有用な情報を発信していきたいと考えている。

(5) その他

(事務局)

小平市下水道ストックマネジメント実施方針の策定について報告。